

景気の概況

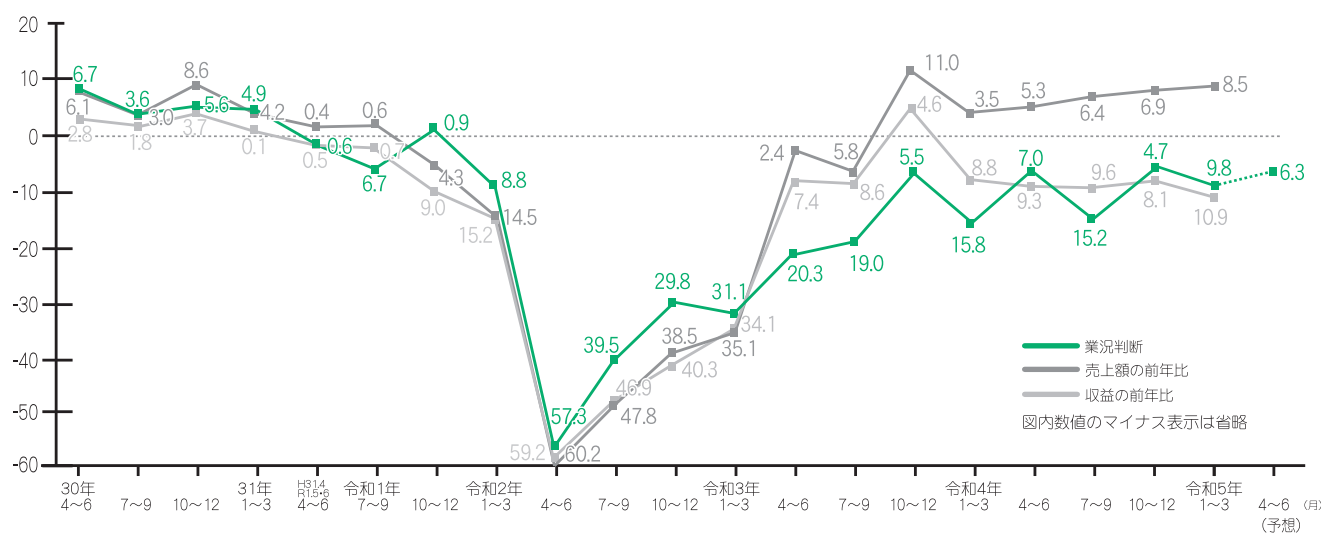
●経済・物価の現状と見通し

我が国の景気は、資源高の影響などを受つつも、新型コロナウイルス感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、持ち直している。海外経済は、回復ペースが鈍化している。そうした影響を受けつつも、輸出や鉱工業生産は、供給制約の影響の緩和に支えられて、横ばい圏内の動きとなっている。企業収益が全体として高水準で推移するもとで、設備投資は緩やかに増加している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、感染症の影響が和らぐもとで、緩やかに増加している。住宅投資は弱めの動きとなっている。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。わが国の金融環境は、企業の資金繰りの一部に厳しさが残っているものの、全体として緩和した状態にある。物価面では、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、エネルギーや食料品、耐久財などの価格上昇により、4%程度となっている。また、予想物価上昇率は上昇している。

先行きのわが国経済を展望すると、資源高や海外経済減速による下押し圧力を受けるものの、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響が和らぐもとで、回復していくとみられる。

(日本銀行 2023年3月)

●業況判断及び売上額・収益の前年比DIの推移(全業種合計)



この調査のご案内

- 調査の時期 令和5年3月1日(水)～7日(火)
- 調査対象 当金庫お取引先企業数 460社
回答企業数 458社 (回収率 99.6%)
- 調査方法 調査員による面接聞き取り法、またはご回答企業による直接記入法
- 分析方法 この調査の分析はDI(ディーアイ)を景気判断の指数として用います。
※DIは、「増加」「上昇」「楽」と答えた企業割合から「減少」「下降」「苦」と答えた企業割合を差し引いた数値のことです。

(注) この天気図は本調査のDIを総合的に判断し作成したものです。



●業種別・従業員(除くパート)規模別調査対象企業数

	製造業	卸売業	小売業	建設業	不動産業	サービス業	合計
1～4人	20	18	59	23	37	17	174
5～9人	24	9	18	31	11	8	101
10～19人	19	8	7	24	6	10	74
20～49人	20	5	8	14	5	7	59
50～99人	11	2	5	4	1	2	25
100人以上	6	2	5	2	2	8	25
合計	100	44	102	98	62	52	458

全業種総合 業況は悪化幅が拡大

前 期	当 期	来 期
		

当金庫営業エリア内の「中小企業景気動向調査」による全業種の業況判断ＤＩは、前期△4.7 から当期△9.8 と悪化幅が 5.1 ポイント拡大しました。（前回調査時における当期予想は△12.0）

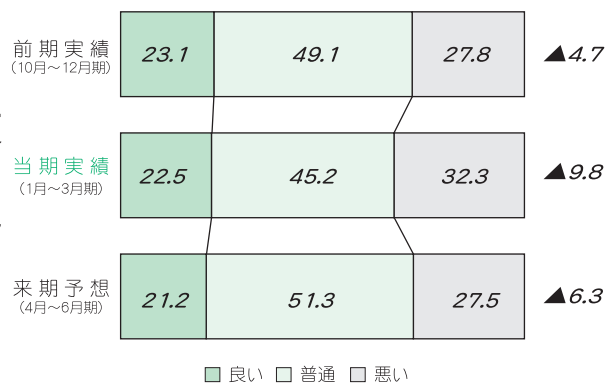
来期は△6.3 と悪化幅が 3.5 ポイント縮小する予想となっています。

天気図でみますと、総合では前期、当期、来期と「薄曇り」が続いています。

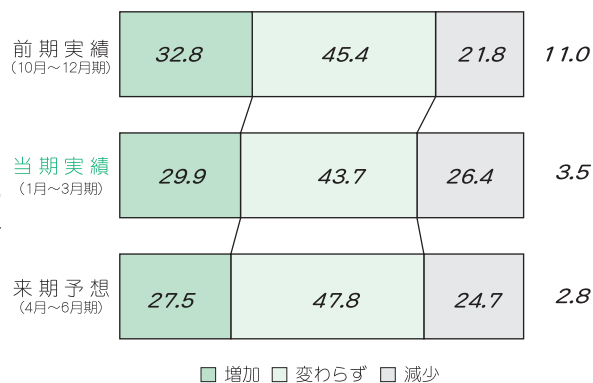
業種別では、製造業、卸売業、小売業が前期「薄曇り」から当期「曇り」に悪化しました。建設業と不動産業は前期「薄曇り」から当期「晴れ」に改善しました。サービスは「薄曇り」が続いています。

来期は、製造業と小売業は「曇り」から「薄曇り」に改善しますが、卸売業は「曇り」が続く予想です。建設業は「晴れ」から「薄曇り」に悪化する予想です。卸売業、不動産業、サービス業は当期と同じ天気図となっています。

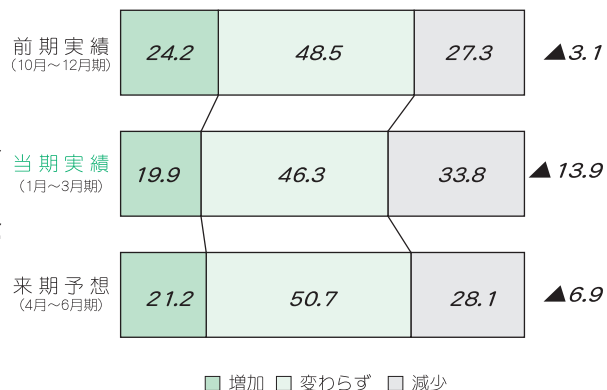
業況



売上額



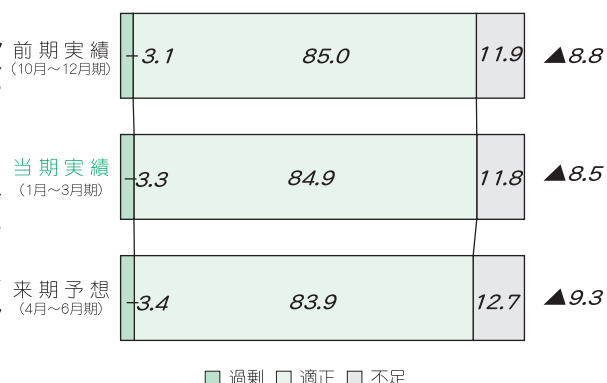
収益



資金繰り



設備の過不足感



●設備投資の実施割合

